

公開シンポジウム「芸術とインタラクティビティ」の開催について

1. 主 催 日本学術会議 哲学委員会芸術と文化環境分科会
芸術学関連学会連合
2. 共 催 京都国立近代美術館
3. 日 時 平成21年 6月13日（土曜日）13:30～17:00
4. 場 所 京都国立近代美術館一階講堂（京都市左京区岡崎円勝寺町）

5. 次 第

開催趣旨

1980年代からのコンピュータゲーム、1990年代以後のインターネットなど、近年メディアと芸術を巡る環境は「インタラクティブ」「相互作用的」な性格を強めている。インタラクティビティとは、一般に二つ以上のものが相互に作用しあうことをいい、とくに近年では作品、制作物に関して、観客（ユーザー）が対象物に働きかけることで対象物（内容、処理）が変わるような場合に、インタラクティブであると言われる。本シンポジウムでは「インタラクティビティ」について、学問的なものと実践的なもの、古典的なものと先端的なものあいだの、文字通り「双方向的な」議論をめざす。

開会の辞 佐々木健一（芸術学関連学会連合会長、日本大学文理学部教授、日本学術会議連携会員）
趣旨説明+司会（シンポジウムオーガナイザー）

為ヶ谷秀一（日本映像学会、女子美術大学大学院美術研究科・教授）、

兼子正勝（日本映像学会、電気通信大学電気通信学部・教授）

講演 原島 博（元東京大学教授、女子美術大学客員教授）「情報技術は文化を目指す」

パネルディスカッション（パネリスト・発表題目）

山口 良臣（意匠学会）「装置あるいは仕掛けとしての芸術作品」

貫 成人（舞踊学会）「舞踊とインタラクティビティ」

仲町 啓子（美術史学会）「絵画の制作と受容ー近代以前の源氏物語絵を中心にー」

吉岡 洋（美学会）「インタラクションと時間」

閉会の辞

岩城見一（日本学術会議「哲学委員会芸術と文化環境分科会」委員長、京都国立近代美術館・館長）

【問い合わせ】

電気通信大学兼子研究室 phone:042-443-5536 mail:kaneko@hc.uec.ac.jp